

南阿蘇村 復興むらづくりだより

～あれから6年
6集落のいまを刻む～



地震被害の大きかった各地区では、住民の皆さんが復興とさらに地域をより良くしていくための活動に奮闘されています。「南阿蘇村復興むらづくりだより」の中で6地区のいまと「集落復興支援事業」の活動などについて紹介していきます。

■黒川区のいま

主な地震被害…道路・橋梁・農地・神社・アパート・下宿など

集落住宅被害…地震前：45世帯→地震後：全半壊42世帯→現在：37世帯（令和4年3月現在）

黒川区は、東海大学阿蘇キャンパスの学生約800人が暮らしていた活気ある「学生村」と呼ばれ、アパートや下宿が56軒ありましたが、黒川地区内の活断層などにより甚大な被害を受け、約8割の家屋が解体。東海大学阿蘇キャンパスの村外での移転再開決定により、賃貸業や飲食店などの現地再開は厳しく、また村全体の観光・農業アルバイトの人手不足などの影響も続いています。

集落復興支援事業では、以下の3つの事業が発足。

最初に、「復興弁当の提供をととした集落活性化事業」（すがるの里）が平成31年に発足。震災後、黒川地区に住むことができなくなった学生たちから「おばちゃんたちのご飯をまた食べたい」との声を受け「何とか学生との絆をつなぎたい」との想いで、黒川地区の女性たちが東海大学阿蘇実習フィールドへ定期的に訪れる学生に手作り弁当を販売。また、視察時に体験談を語ったり、視察弁当の販売、学生との地域イベントの振る舞いなどもおこなっています。その他、加工品開発として地元の乾燥野菜の試作にも挑戦中です。

また、「黒川区アーカイブ制作・発信事業」（阿蘇の灯・すがるの里）が令和元年に発足。東海大学生の有志団体「阿蘇の灯」で取り組む地域交流・支援イベントや語り部集会などをおこなうなかで、伝え残したいメッセージや写真をまとめ「学生村からのメッセージ」として旧長陽西部小学校内の教室に展示。震災経験の無い学生や視察見学者への大切な継承の形として活用されています。

そして、「黒川やまめ活性化事業」（黒川やまめの会）が令和2年に発足。湧水豊かな黒川地区でおこなわれていたヤマメの養殖を復活。稚魚や餌代などは会員で出資し、毎年5月から約500匹を育て始め、秋の地区での学生との交流イベントや年末の希望者への販売で喜ばれており、ヤマメ料理や加工品の視察もおこなっています。

現在、地区には「震災遺構」が5カ所でき、旧長陽西部小学校をはじめ多くの視察や見学者が訪れています。



第6回「^{あかり}灯物語」イベント開催

日時／10月29日（土）午後6時点灯式～8時まで
会場／旧長陽西部小学校グラウンド（河陽4964）

「阿蘇の灯」による鎮魂と平穏を願う灯りイベントです。
村内の全小・中学生や全国のみなさんに書いていただいたメッセージを約400基の灯籠にし、地域の野菜や豚汁、黒川区のヤマメの塩焼きなども販売します。ご来場の際には、手指の消毒とマスク着用をお願いします。開催の有無などの詳しい情報は「阿蘇の灯」facebookでご確認ください。